

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com (No.148)

なぜ紙が好まれるのか？

— 紙の弱みは強み —

前回の sanbi-i-com では、電子メディア(注)に対する紙・印刷物の環境面の優位点をご説明いたしましたが、今回からは、情報伝達手段、媒体としての紙の長所や有効性について取り上げてまいります。

(注)： ウェブサイトや電子書籍等の「紙でなく画面で読む電子メディア全般」を、以下「電子」と略すことといたします。

■ 紙と画面のどちらで読みたいか？

この質問に「日本の通勤電車内で」と条件を付ければ、おそらく画面派が優勢になるでしょう。現に今や電車内では、新聞、雑誌、書籍よりもスマホ等の画面で何かを読んでいる人の方が多くなっています。

しかしながら、時と場合を限定せず、単に「同じ内容なら、どちらで読みたいか？」と尋ねれば、紙が依然優勢と見て間違いないでしょう。例えば以下の記事はアメリカ人を対象とした調査の結果ですが、70%の人が画面よりも紙を好むと答えています。

<http://printinthemix.com/Fastfacts/Show/519>

それでもデジタルネイティブな若い世代に限れば、紙の選好率はもっとずっと低いのではないかと思います

や、「18～24 歳では 69%」とありますので、全体の数字 (70%) とほぼ変わりません。

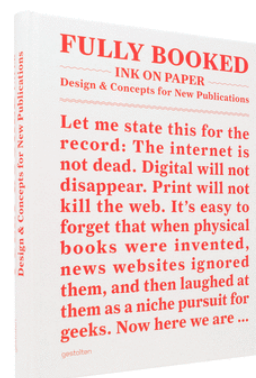
このように世代を問わず紙が好まれる理由として、よく言われるのは「紙の方が画面よりも目が疲れないし、集中できて頭に入る(だからついプリントアウトしてしまう)」という説ですが、これを裏付ける研究結果等については次回以降で取り上げていく予定です。

今回は、明らかに電子に劣る紙の欠点だと誰もが思っていることが意外にも紙に長所をもたらしているということに気付かせてくれた一風変わった記事をご紹介します。

■ 印刷栄えども電子は死なず

この見出しをご覧になった方の多くが、「電子と印刷が逆ではないのか?」「それとも印刷を揶揄するための冗談か?」などと怪訝に思われたかもしれません。これは下記サイトの記事冒頭の「インターネットは死んでいない。デジタルは消えない。印刷はウェブを殺さない」を一つの文にまとめてみたものなのですが、この何とも奇妙な書き出しで始まる文章は、『Fully Booked - Ink On Paper: Design and Concepts for New Publications』という書籍デザイン見本集のような本(写真参照)の序文として、この本の編集者の一人である Andrew Losowsky 氏が書いたものです。

<http://www.twosidesna.org/US/Future-Of-Print-Fully-Booked-Ink-On-Paper>Showcases-Amazing-Innovations-In-Physical-Books>



写真出典： 出版社(Gestalten 社)の下記サイトより

<http://shop.gestalten.com/books/fully-booked.html>

「印刷はウェブを殺さない」の後には、「紙の本が発明された時、プロのウェブサイトは、紙の本を最初は無視し、その後は『マニア向けのニッチに過ぎない』と

嘲笑した～云々」という文が続きます。これでもうお分かりの通り、「紙の本がインターネットよりも後に発明された世界」という設定なのです。

デジタルのみの世界で育ってきた人々の多くにとって、おそらく発明当初の紙の本は、「双方向のやり取りができない」「一度印刷したら書き換え・更新もできない」等の欠点ばかりが目につく「電子の不完全で貧弱な模倣」であり、どこに長所があるのかよく分からない代物だったことでしょう。ところが紙の本は、その後この世界で消えていくどころか、むしろ大いに売れて普及し、社会に不可欠なものに成長していきます。紙の本の大流行を見て、かつて印刷を嘲笑していた当のライター達が、舌の根も乾かぬうちに「インターネットは死んだ」などと言い出したりする始末です(冒頭の「インターネットは死んでいない」は、この手の何かを全面否定してしまう極論への批判です)。

それでは、紙の本のどこがどう受けて普及に至ったのでしょうか？ Losowsky 氏の原文の説明はやや込み

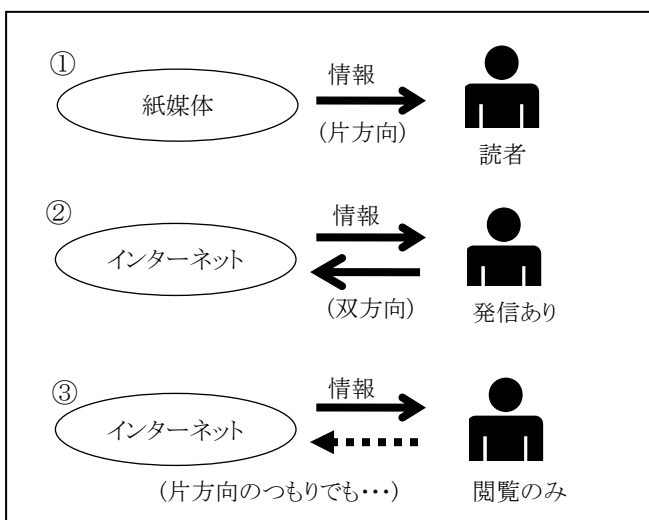
入っているため、大雑把に意識して、電子と紙を対比させる形で以下の表にまとめてみます。

	電子	紙の本	紙の本のメリット
①	双方向可	双方向不可	(安全性)※
②	所有権なし (閲覧権のみ)	所有権あり	売却、譲渡、貸与可能。電子の閲覧権喪失リスクとは無縁。
③	ソーシャル	パーソナル	思考集中。Pop-up等に邪魔されず。
④	更新可	更新不可	情報の固定、不変→信頼性
⑤	形・重さ無し	形・重さあり	触覚→記憶補助

この中で①や④は、一見して「電子にできて紙にはできない」という明白な弱みなのですが、それがかえて別の特長・強みをもたらしているというのです。※原文には①のインタラクティブ(双方向)性の欠如がどんなメリットになるのかの説明がないため、この(安全性)は筆者が補いました。以下に敷衍いたします。

■ 紙は本質的に安全

紙媒体の情報伝達は書き手から読み手への一方通行(図①)ですが、インターネットは双方向のやり取りができます(図②)。ぱっと思いつくところでは、SNSで書き込みをしたり、オンラインで何かを売買したりすることは、双方向性がなければ決してできません。



しかし、ネットだからといって、常に双方向性が欲しい訳ではありません。例えばサイトを閲覧したいだけの場合は、余計な発信を防ぐために、できれば双方向にならない紙のような片方向性が望まれます。とこ

ろが、当人は片方向で見ているつもりでも、大概の場合、クッキー(説明は省かせて頂きます)等により、知らない内にある程度は情報を取られます(図③の点線)。例えばショッピングサイトなどで「あなたが最近チェックした商品は〇〇です」と表示が出たりするのは、閲覧履歴を把握されたからです。その程度ならば害はないのですが、問題は、世の中にはウイルス、スパイウェア、フィッシングサイトといった悪質なものがあふれかえており、クレジットカード番号などの致命的情報を抜かれる危険があることです。つい先日も人気ブログサービス JUGEM と大手旅行会社 HIS のHP が何者かに改ざんされ、閲覧ただけでウイルスに感染する状態になっていたという事件がありました。そのウイルスにはネットバンキングの口座情報を送信する機能もあったそうです。このようにネットの双方向性は便利な反面、危険と背中合わせです。一方、紙は本質的に片方向の媒体なので、このような危険とは無縁であり、100%安全です。

以上

(第 148 回: 2014 年 8 月 5 日)